大分県教育センター 長期派遣研修生 研究テーマ一覧

NO.	年度	科目	研究テーマ	概要
1	令和3年度	小学校ICT活用	「評価・改善する『情報活用能力』の育成」	平成29年告示の小学校学習指導要領において、情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力とされている。本研究では、情報活用能力において重要な評価・改善する学習活動に着目する。対象学年に合わせて、振り返りを工夫したプログラミングの学習活動と地元の祭りをデジタルで表現する学習活動を通して、評価・改善する「情報活用能力」の向上を目指し、その効果を検討する。
2	令和3年度	中学校国語	「混成型テキストにおける初読の読み方と内容把握の関連」	PISAをはじめとした各種学力調査の結果から、混成型テキストの読解力に課題があることが指摘されている。本研究では、生徒が混成型テキストをどのように読んでいるのか、初読の読み進め方に注目した。初読において、文章と図表をどのように読んでいるのかという実態を調査し、読み進め方の違いがテキストの要旨の把握に影響を及ぼしているかどうかについて検討した。
3	令和3年度	知的障がい特別支援学校小学部	「児童の気づきが生まれる知的障がい特別支援学校小学部の生活科の授業づくり」	知的障がい特別支援学校小学部における生活科の授業に必要な要素について提案する。特別支援学校学習指導要領（平成29年告示）の生活科では、小学校生活科と同じく気づきの大切さについて述べられている。本研究では、気づきを生み出すための質を高める授業の要素として(1)具体的な活動の設定、(2)各活動直後の振り返りの設定、(3)気づきを促す教師の働きかけが重要と考え、(1)～(3)の効果について検証した。
4	令和2年度	中学校国語	話し合う力の変容を実感できる生徒の育成 －振り返りの分析を通して－	本研究では、生徒が話し合う力の変容を実感できる振り返りについて、その効果的な観点及び、場面を検証した。振り返りの観点、伝え合う力に必要とされる5つの言語意識（相手意識・目的意識・方法意識・条件意識・評価意識）から設定したところ、話し合う力の変容の実感につながることが明らかになった。一方、振り返りを1単位時間の中で場面を変えて設定したところ、話し合う力の変容の実感は見られなかったものの、場面の違いによる効果まで明らかにできなかった。効果的な振り返りの場面については単元の視点からも研究を続けていく。
5	令和2年度	中学校英語	英文の理解に繋がる受容語彙を増やす単元構想 －中学校外国語教科書にみる動詞の分析を通して－	本研究では、来年度使用される教科書の動詞を分析し、その結果を踏まえた単元構想の作成を提案する。「読むこと」を中心とした学習活動を行う単元の中で、系統的で継続的な語彙指導を位置付ける。また、どのような語彙指導を行う必要があるか視点を明らかにし、学習指導の改善に役立てようとするものである。
6	令和元年度	小学校道徳	自己との関わりを意識し、主体的に他者とつながる道徳科学習指導 －問題意識をもたせ、議論につなぐ導入の工夫を通して－	本研究は、「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業の導入場面において、問題意識をもたせる工夫を行うことを通じて、道徳的価値に関わる事象を児童が自己の問題としてとらえ、主体的に他者とつながろうとする意識の変化について検証したものである。具体的には、第6学年3学期を対象に、導入場面の教材との出合わせ方を学級ごとに比べて検証授業を実施し、その後の児童の思考を比較した。導入の工夫をした学級では、特に工夫をしなかった学級に比べて、導入後の展開場面で様々な発言をするようになり、より多面的・多角的な見方や考え方が引き出され、活発な議論につながった。これによって、道徳的価値に関わる事象を自己の問題としてとらえ、主体的に他者とつながろうとする意識が高まったと考えられる。また、導入の工夫をした授業を継続することで、児童の道徳科の授業の意欲が高まり、学んだ道徳性を生活に生かそうとする態度が醸成された。
7	令和元年度	小学校音楽	小学校音楽科鑑賞領域における思考力、判断力、表現力等の育成 －感性を働かせ、音楽活動を楽しむ言語活動の工夫－	新学習指導要領で求められている音楽科の資質・能力に関する所属校児童の実態調査から、音楽的な理由や根拠をもとに、自分の考えを表現することに課題があると分かった。鑑賞領域の授業においては、聴き取ったことと感じ取ったことの間わりについて共有する言語活動の工夫が必要である。曲を特徴付ける要素や曲想の変化をとらえて聴いたり、曲想と音楽の構造を関係付けたりするための言語活動を取り入れることで、児童は曲のよさを見だし、曲全体を聴き深めることができた。
8	令和元年度	小学校算数	根拠を基に、筋道を立てて説明する力を高める指導の工夫 －「変化と関係」領域における数学的活動を通して－	本研究は、算数科「C変化と関係」領域において、自分の考えを、根拠を基に図や表、用語などを適切に用いながら筋道を立てて説明することができる児童を育成するための指導の在り方を探ったものである。問題場面をとらえる段階を、根拠をもつ段階と見通しをもつ段階に分けて授業を展開した。図や表で数値の可視化すること、数学的な表現の意味や価値を位置付けていくこと、丁寧に自分の説明を振り返る場面を設定することで、児童の説明する力の高まりが見られた。
9	令和元年度	小学校外国語	音と文字をつなぐ外国語学習 －文字の音韻認識や形状認識を高める指導を通して－	これからの小学校の外国語学習において、中学校への接続を踏まえ、英語の音と文字をどうつないでいくかは大きな課題である。小学校においても、「読むこと」「書くこと」の領域が加わることで、文字指導を行うことが求められるようになる。そこで、今まで行われてきた音声中心の授業を主軸とした、段階的・継続的な文字指導について研究した。本研究は、授業の始めに帯活動として、文字の音韻認識や形状認識を高める活動合計30回取り入れた。その結果、児童が英語の音を聞いて、それに対応する文字を認識できるようになった。同時に、児童の実態に即した教材をスパイラルに取り入れることで、児童は繰り返し達成感を得、難しいことに挑戦しようとする意欲につながったと考えられる。また、文字を伴う活動に対しても興味・関心が高まること確認された。
10	令和元年度	中学校社会	中学校社会科公民的分野における社会参画意識を高める指導の工夫 －価値判断や意思決定する場面を位置付けた学習活動を通して－	本研究は、中学校社会科公民的分野において、価値判断や意思決定する場面を位置付けた学習活動を通して、社会参画意識を高めるための指導の工夫を探ったものである。中学校社会科の学習指導要領改訂の趣旨の一つに、接続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養や、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成が求められている。これらの力を養う場面を位置付けた意思決定過程の手立てを明確にし、地域社会へ提言する授業を行ったところ、社会参画意識の高まりが認められた。
11	令和元年度	特別支援教育	特別支援学校高等部の教科「職業」の指導内容・指導方法の改善 －自己理解に基づく、よりよい将来の職業生活を考えることができる生徒の育成を目指して－	本研究は、卒業後の就労を中心とした生活を具体的にイメージできる生徒の育成を目指し、特別支援学校高等部新学習指導要領「職業」の内容を、指導の形態別や高等部3年次の系統性等の視点から、指導内容表として整備し、設定した指導内容の是非について実際の授業を通して検証したものである。設定した指導内容の検証では、卒業後の生活を具体的にイメージし、今後の自己の課題を発見するなどの期待した姿が見られ、指導内容の方向性については一定の成果を上げたと思われる。一方、生徒によっては学習レディネスが一部備わっていない等の問題も見られ、設定した各学年の題材ごとの指導内容について、個別に指導のステップを構築していく必要がある等の課題が明らかとなった。
12	平成30年度	特別支援教育	中学校特別支援学級在籍生徒に対する自立活動の指導の改善 －授業づくりの手順と指導の具体的方法－	教育現場では、小・中学校における個々の教育的ニーズに対応した指導・支援の充実が求められている。しかし、実情はニーズに合致する適切な指導・支援への道筋が見えず、困りを抱えている。そこで本研究では、専門性に大きく左右されることのない実態把握の方法及び実態と合致する指導内容の設定のための手立てについて提案する。

13	平成30年度	中学校国語	「主体的・対話的で深い学び」を促す 国語科「話すこと・聞くこと」の単元構想 －自らの学びを自覚し、高めようとする生徒の育成－	新学習指導要領では、子供たちが生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、学習の質を一層高める授業改善が求められている。しかしながら、依然として教材への依存度が高い授業や教師主導の型にまっただけの授業等が散見される。特に「話すこと・聞くこと」の領域において課題が大きい。そこで本研究では、生徒が学びの主体として他者と関わりながら、自らの学びを高める姿を目指し、「振り返り」に焦点をあてた「話すこと・聞くこと」の単元構想の留意点について提案する。
14	平成30年度	小学校外国語	小学校「英語」における書く指導の在り方 －スモールステップを取り入れた授業づくりの工夫－	新学習指導要領より、小学校高学年に外国語が導入され「読むこと」「書くこと」の領域が加えられた。「書くこと」に慣れ親しませ、児童の書く活動に対する意欲を喚起させるにはどうあればよいかについて、スモールステップを取り入れた授業づくりを通した文字導入期における書く指導の在り方を提案する。
15	平成30年度	中学校外国語	中学校外国語科「読むこと」における内容理解を促す指導 －内容理解を促す指導の工夫－	英語の文章を日本語に訳すことができても、登場人物の心情や書き手が伝えたい大まかな内容を捉えることに難しさを感じる生徒がいる。そこで本研究では、生徒が意味内容を理解することができるよう、「文章全体の話題や主題を捉える力をつける指導」と「英文を根拠に推論しながら理解する力をつける指導」における手立てについて提案する。
16	平成30年度	高校数学	思考の変容や気付きを実感させる協働学習に関する研究 －学習活動におけるポートフォリオとICTの活用－	授業改善においては、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、生徒が主体的に試行錯誤し問題に取り組む機会を増やすことで、思考の変容や気付きを実感する経験を積み重ねていくことが求められている。そこで本研究では、授業での充実感が高め、学びに向かう姿勢をつなげるための協働学習における効果的な議論や、自らの思考の変容に気付きをさせる振り返り等について提案する。
17	平成29年度	中学校美術科	価値意識をもって批評し合うことのできる生徒の育成 －鑑賞領域における対話を重視した指導を通して－	新学習指導要領解説や各種調査の分析によると「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝える力」や「感性を豊かに働かせながら、新たな価値を創造する力」が求められている。本研究ではその解決に向け、鑑賞の視点となる造形要素を根拠・理由として挙げながら対話することを重視した鑑賞活動を通して、価値意識をもって批評し合うことのできる生徒の育成を目指す授業の在り方を提案する。
18	平成29年度	中学校英語科	読み手に伝わる論理的な英文を書くことができる生徒の育成	グローバル社会において、国境を越え多様な価値観をもった人々と協働していくには、求められた内容について自分の考えとその理由や根拠をもち、論理的に伝える力が必要であると考えられる。論理の構築と吟味を促す指導、場面や状況及び読み手を意識した内容を書くための指導、伝えたい内容を正確に英文にする指導について検証し、具体的な取組や手立てを提案する。
19	平成29年度	高等学校教育相談	自己肯定感を高め、生徒が集団に居場所を感じられるグループアプローチ	全国的に長期欠席者や転・退学者の多さが課題となっている。グループアプローチを活用した仲間づくりを通して、生徒相互・生徒教師間の信頼関係やあたたかな人間関係を深め、自他を認め合える関係をつくることで、生徒個々の自己肯定感を高め、人間関係を理由とした長期欠席者や転退学者の減少を目指した。学校環境適応感尺度「アセス」や校内アンケートの分析を基に、目的に応じたグループアプローチの取組を提案する。
20	平成29年度	小学校道徳	道徳的価値の理解を深める道徳授業の在り方	道徳授業において、読み物に登場する人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること、学年が上がるにつれて道徳の授業を楽しい・ためになると感じている児童生徒の割合は低下していること等の課題が指摘されている。そこで、道徳授業の改善・充実へ向けて、問題解決的な学習を取り入れた指導の工夫を通して、児童の道徳的価値の理解を深めるための道徳授業の在り方を提案する。
21	平成29年度	中学校英語科	自分の思いや考えを伝え合う力を育てる英語科学習指導 －パフォーマンス評価に基づく表現活動の工夫を通して－	話すことの領域において、目標を意識した指導の工夫をすることや、身に付けた語彙や表現を繰り返し活用し、場面や状況等に応じて適切に表現する活動を仕組むことが本町の課題である。そこで、[やり取り]の領域での指導と評価の在り方の構築を目指し、CAN-DOリスト、パフォーマンステストとルーブリック、単元構想を基に系統的・継続的に行う表現活動について提案する。
22	平成28年度	中学校英語科	主体的・協働的に学ぶ英語授業の在り方 －「思考・発信型」の言語活動の工夫を通して－	本市では、授業改善を組織的に進めること、特に、学びに向かう集団づくり、思考力・判断力・表現力の育成、学校・家庭・地域の連携・協働の具体化が課題となっている。地域の魅力を生かし、生徒が発信したいと思える題材と「生徒が使える」CAN-DOリストを取り入れ、2技能以上を統合的に活用させる「思考・発信型」の言語活動を計画的に設定した。生徒の主体的・協働的な学びを促し、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを生徒が認識し、自信を持つことができるような英語授業の在り方について提案する。
23	平成28年度	小学校算数科	算数科学習指導における論理的思考力・表現力の育成	各種調査の分析によると、見出した考えを、条件を変更した場面に活用して発展的に考察し、考えを説明する力、つまり思考力・表現力の育成が本市の課題である。そこで、思考力・表現力を育成することに大きく関わる「言語活動」の中でも「論理的思考力・表現力」の育成を目的に、単元及び授業デザインの具体的な取組の構築を通して、小学校算数科における単元及び授業展開を提案する。